

景況動向指数(Diffusion Index)

(2022年1月～3月)



経営発達支援事業資料

長浜市商工会

調 査 対 象 事 業 所

長浜市商工会 管内100事業所

製 造 業 (2 0 事 業 所)

建 設 業 (2 0 事 業 所)

卸 小 売 業 (2 0 事 業 所)

飲 食 宿 泊 業 (2 0 事 業 所)

サ ー ビ ス 業 (2 0 事 業 所)

* 調査期間 2022年1月～3月

この資料は、経営発達支援事業の地域の動向調査に関することの目的で実施した資料です。

* D I とは？

本報告書の中で%以外に用いているD I 指数とは、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略です。

各調査項目について増加（上昇、好転、長期化）企業割合から減少（低下、悪化、短期化）企業割合を差し引いた値を示します。

D I が+（プラス）なら強気（楽観）、-（マイナス）なら弱気（悲観）を表します。

例えば売上高で増加企業 50%、不変企業 30%、減少企業 20%の場合、

D I 指数・・・ $50\% - 20\% = 30$ となり、全体として経営者の売上に対する強気の度合いを表しています。

製造業（2022年1月～3月）DI 値抜粋

コメント

製造業の業績判断にかかるDIは、オミクロン株の感染拡大により悪化に転じ、売上減少、材料価格上昇の影響を受けて収益や資金繰り悪化の影響が顕著な状況である。

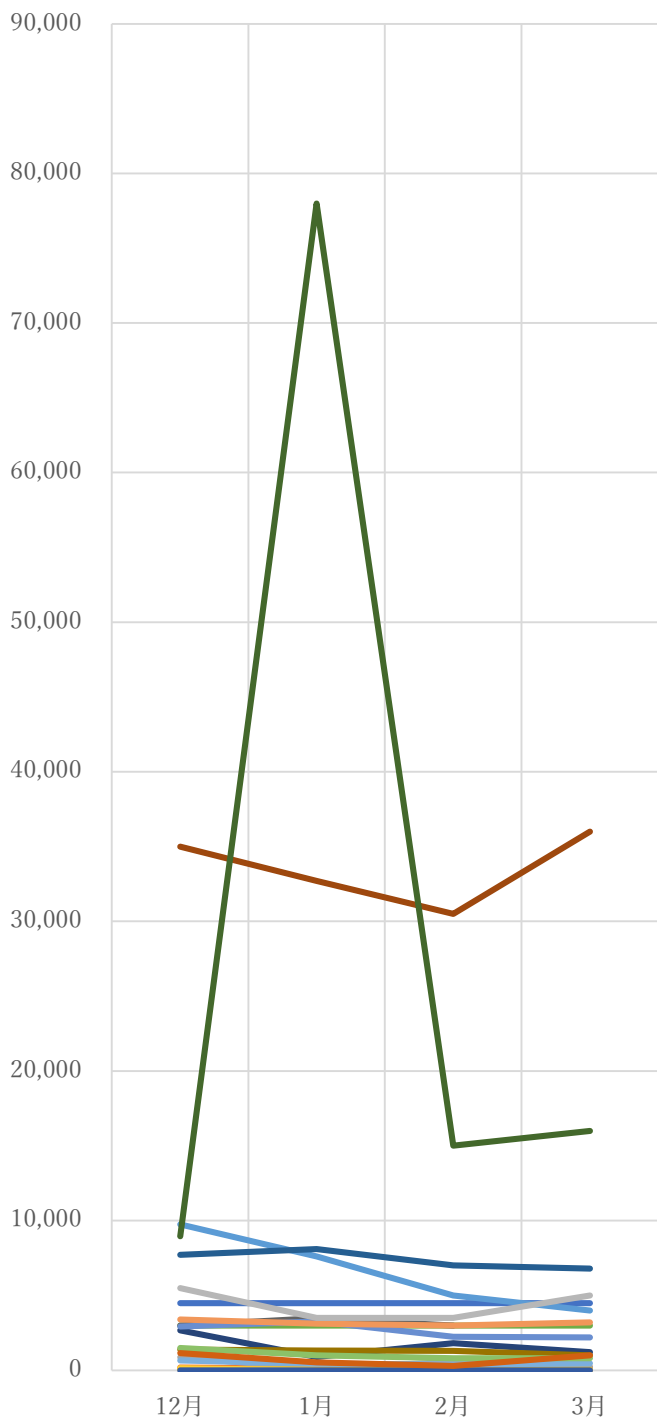
売上DIは前年同期+5、前期▲20と下げ止まりから減少に転じ来期見通しにも▲10と弱含みの見通しである。

資金繰りDIについては前年同期▲5、前期は▲25と悪化傾向である。来期の見通しも▲5と厳しい。原材料仕入単価DIの上昇が顕著で、前年同期+60、来期見通し+55と原価上昇の影響を上げる企業が過半数である。引合いDIについても、今期水準▲20と低調である。

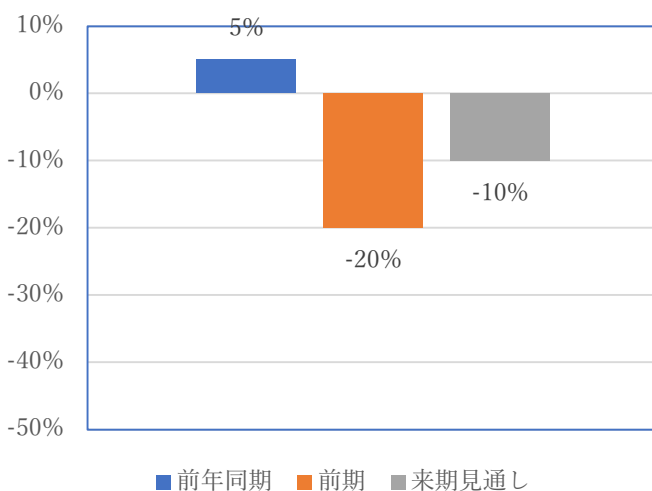
設備投資について、足元は低調ながら来期は生産設備の投資を計画している企業が多い。

個別の声としては厳しい声が増えており、コロナ感染拡大と悪天候が重なり、原材料価格の上昇が追い打ちをかけている、物価上昇で消費者の財布の紐が固い。天候不順で売上が減少。巣ごもり需要による売上増加も人材不足で操業が厳しい。といった声の他、自身の体調不良により辞めることを検討している、既に12月で廃業をした、など厳しい現状を顕著に示す声があった。

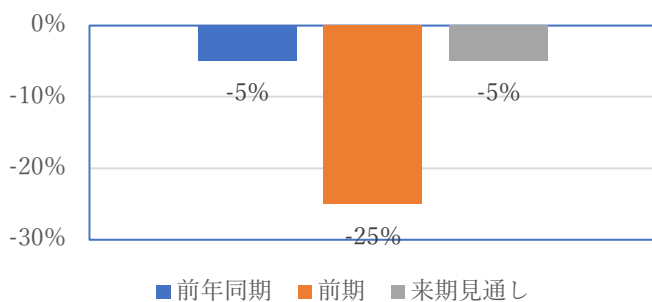
売上推移（千円）



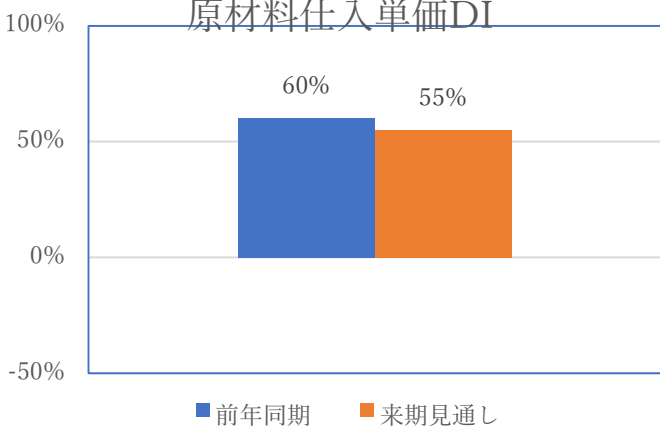
売上DI

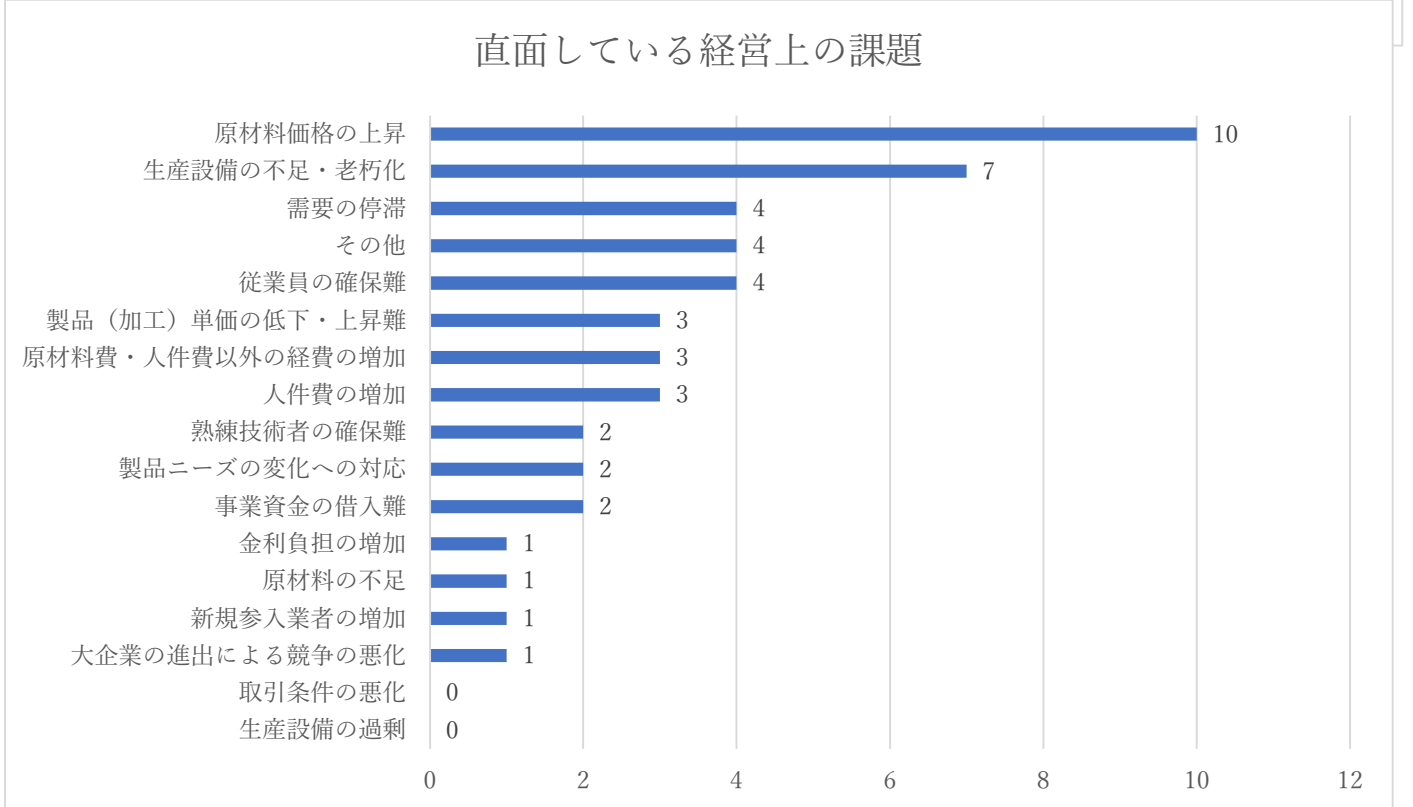
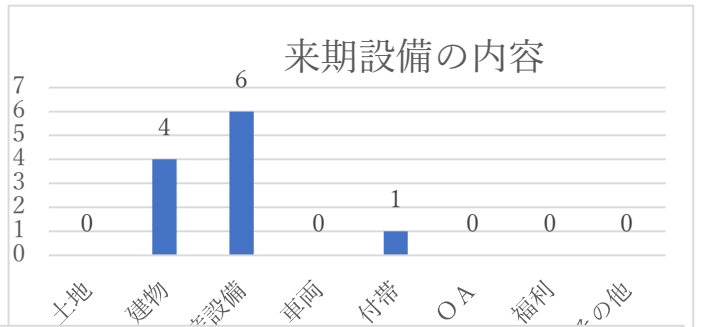
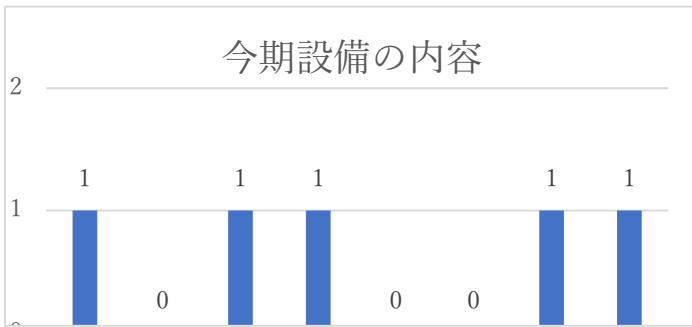
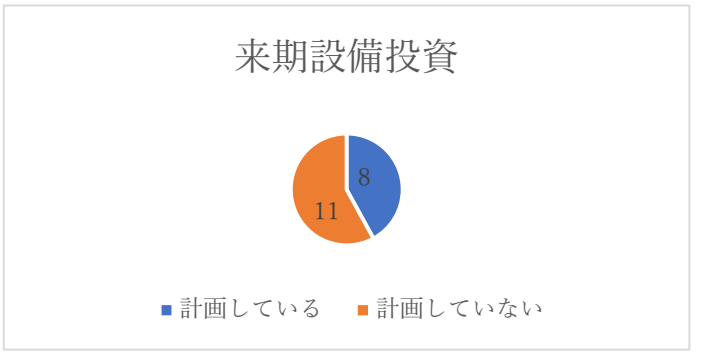
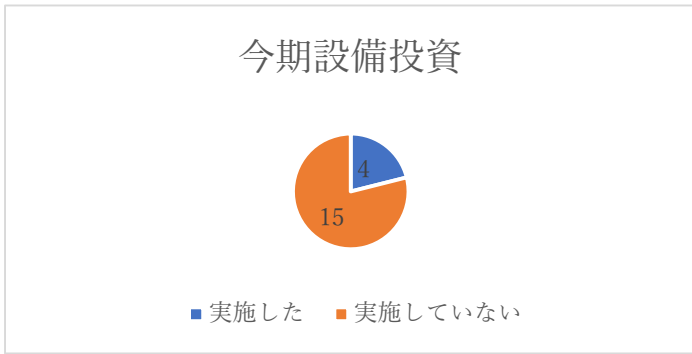
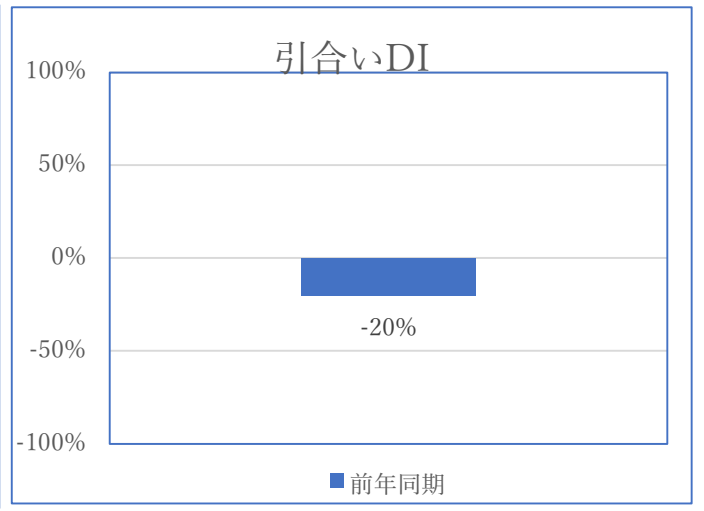
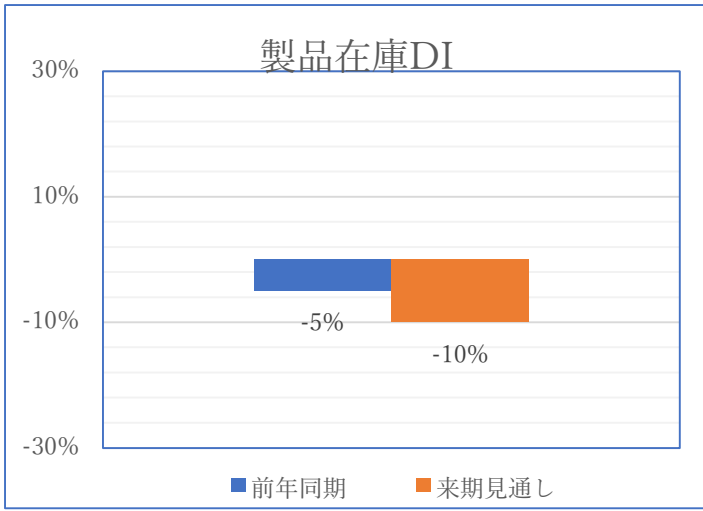


資金繰りDI



原材料仕入単価DI





建設業（2022年1月～3月）DI 値抜粋

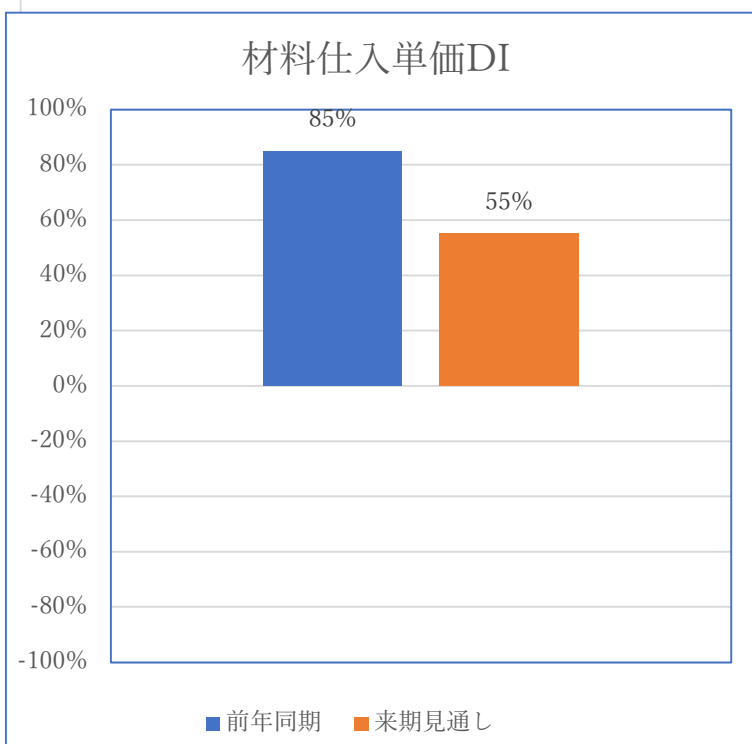
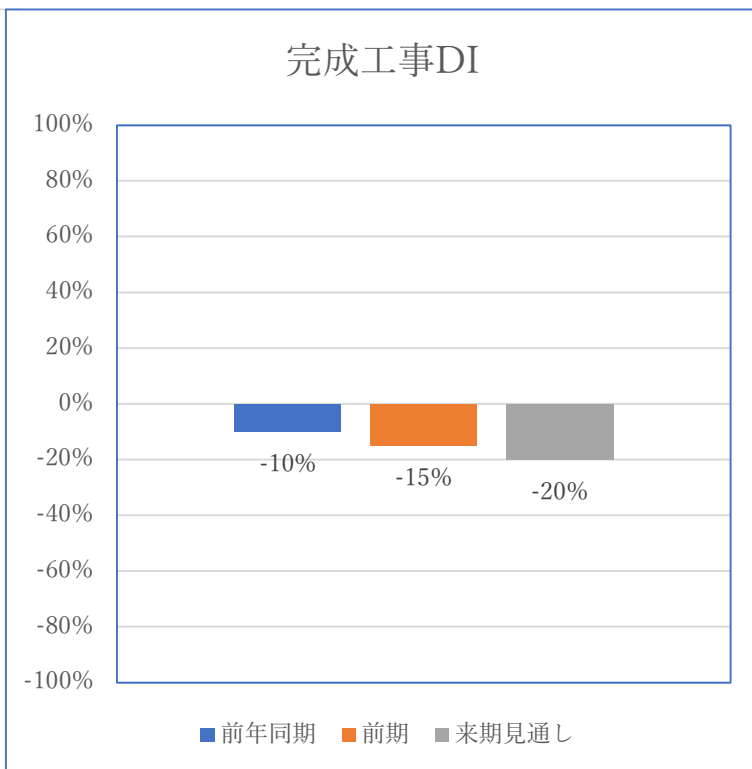
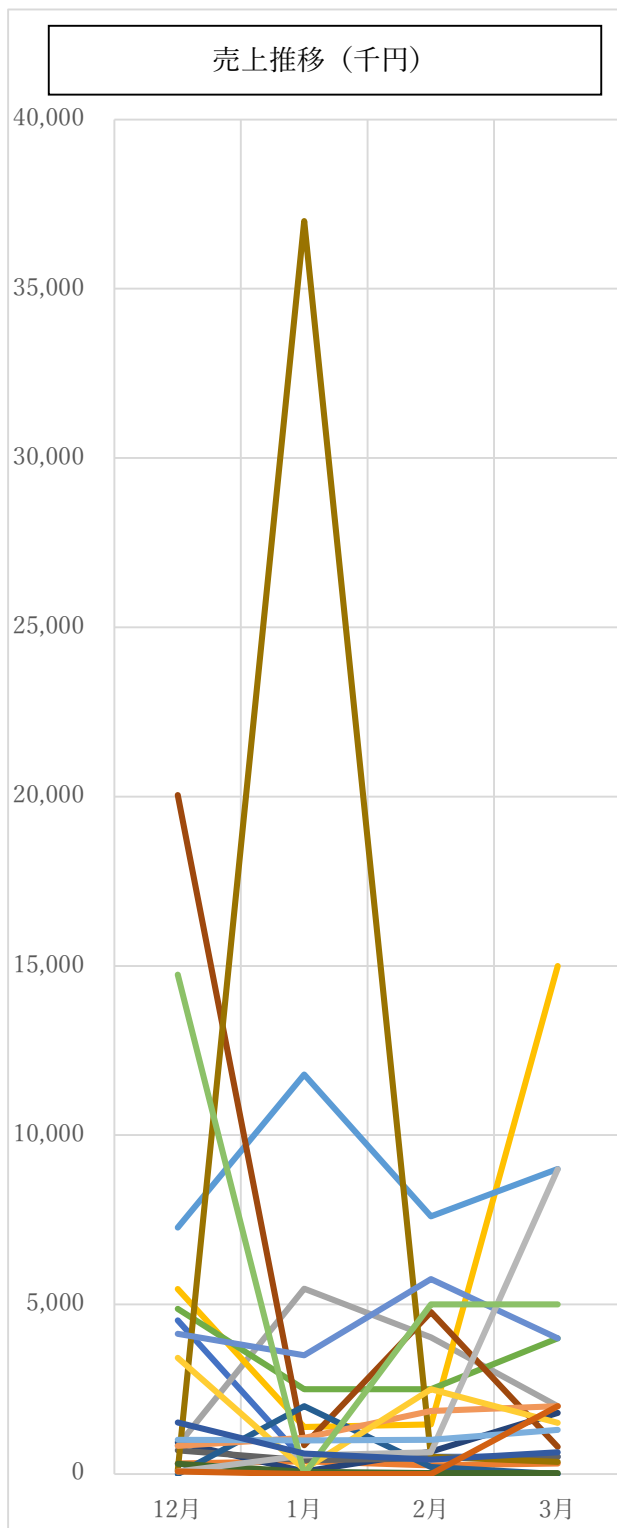
コメント

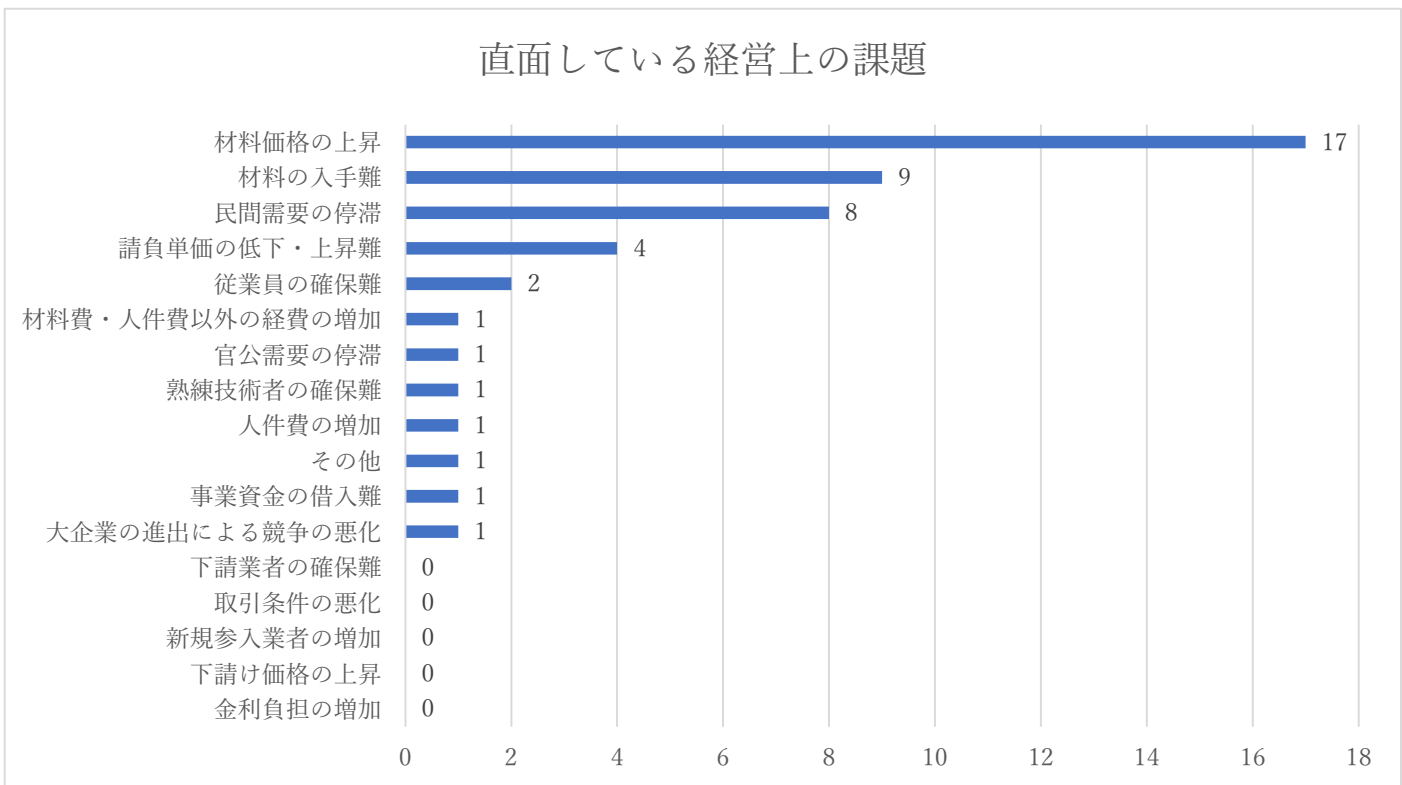
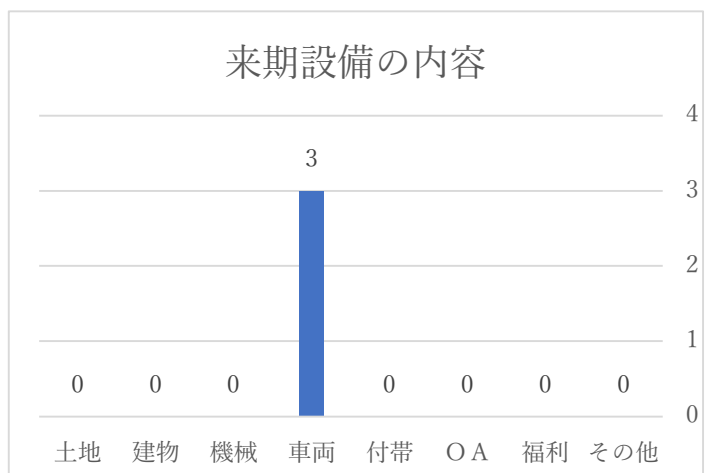
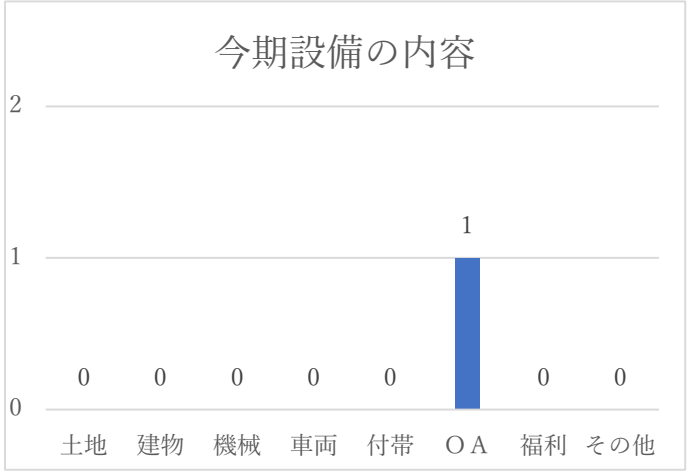
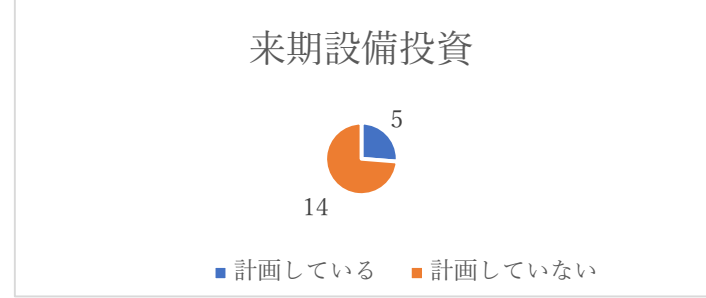
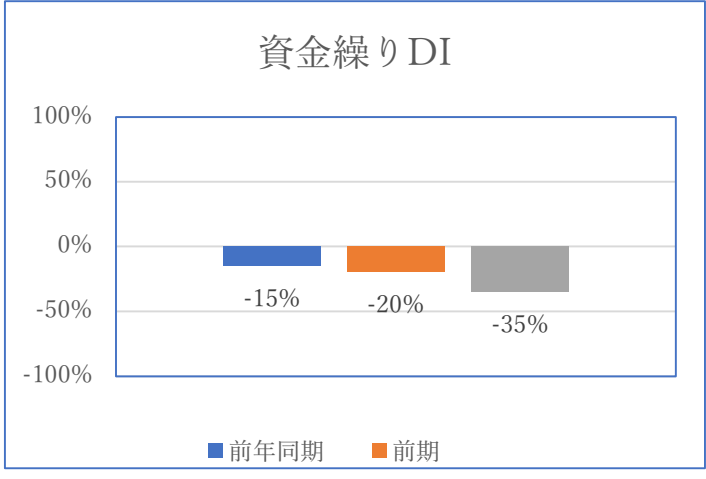
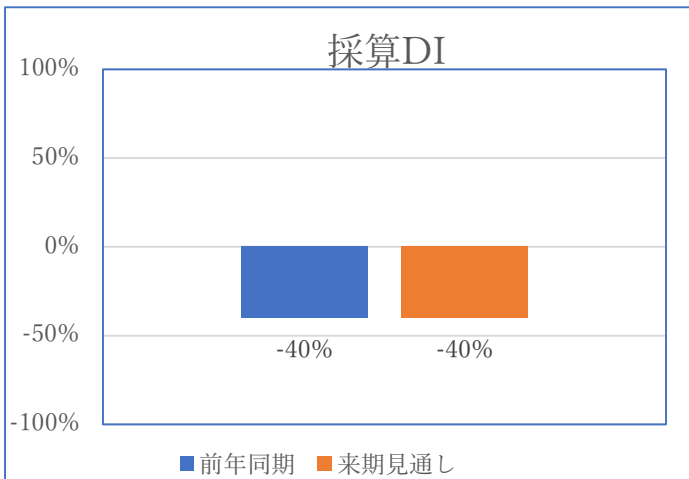
建設業の業況は、他業種より悪化の度合いは小幅なものの、原材料価格の上昇による採算の悪化傾向が顕著である。

完成工事高DIは前年同期▲10、前期▲15と足元の低調な状況に加え、今後の見通しは▲20と先行きも低調な状況が見受けられる。

材料仕入れ単価DIが極めて厳しく、値上がり+85前年同期でほとんどの企業が材料の値上がりの影響があると回答している、来期見通しとも+55と木材や鉄材の仕入価格の値段上昇の声がある。完成工事が低調で材料値上がりにより採算DIも前年同期▲40来期も同様である。設備投資も足元、先行きとも低調である。

個別企業の声として、受注はまずまずであるが材料不足、価格上昇、ガソリン高騰の影響がある。材料価格が令和3年で3回も上がった。設備機器の入手が困難であり、新築・リフォームの受注が少ない。材料代の値上がりにより見積価格が高額になってしまう。といった厳しい状況を訴える声がある。一方今年は雪害が多く特需を見込むとの声もあった。





卸小売業（2022年1月～3月）DI 値抜粋

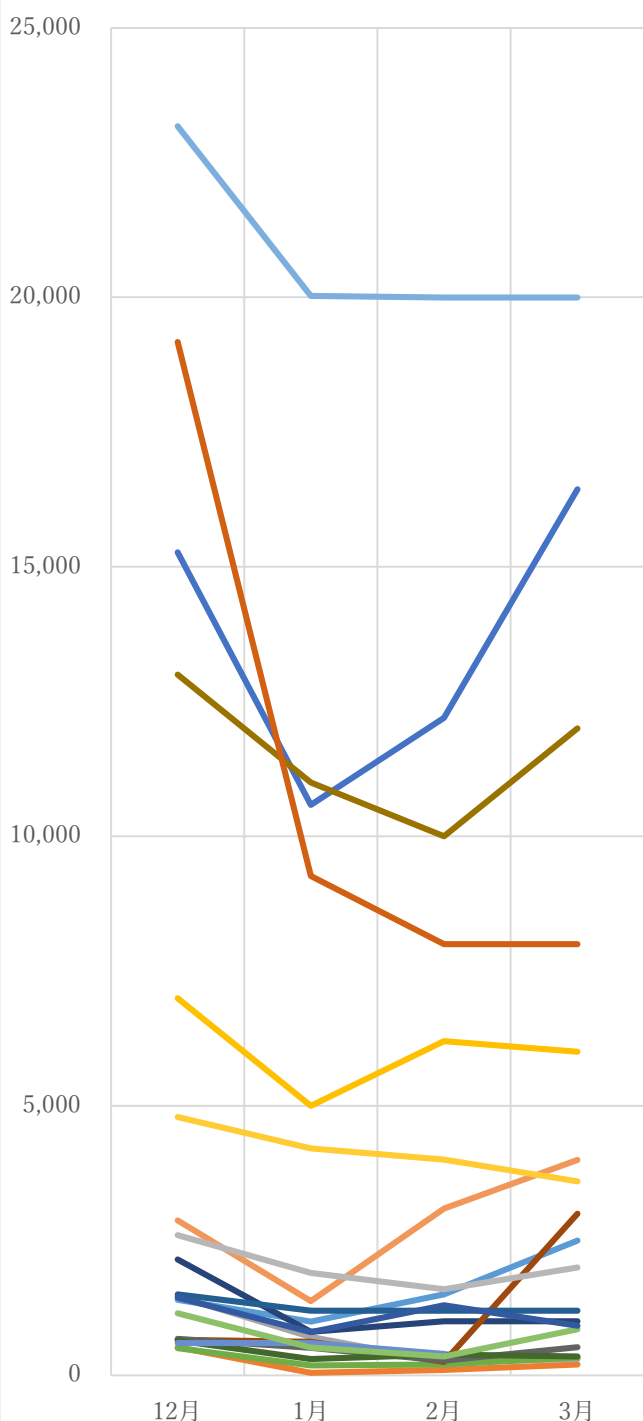
コメント

卸小売業の業況に関するDIは、感染拡大により低調な状況が続いており、採算悪化から資金繰りや資金調達の懸念に不安が広がっている。

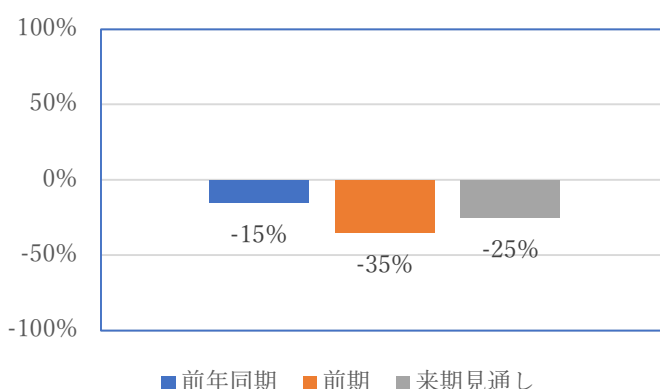
売上DIは前年同期▲15と前年より減少幅は改善しているが、前期からは▲35と低調な推移が続いている。今後の見通しも▲25と低調な見通しとなっている。

資金繰りDIについても前期▲40、前期▲40と極めて厳しい状況が続き、来期も▲45と資金繰り面に不安を抱える声が多い。感染拡大や生活様式の変化もあり店頭客の減少が顕著であり客数DIは前年同期▲60、前期▲40 来期見通しも▲45と多くの企業が来客の減少を訴えている。採算面では仕入れ価格の上昇を上げる企業が多く、商品仕入単価DIは前年同期+40、来期+40とコストの上昇により収益が圧迫されている。借入金に融資の締め付けを懸念して借入難度について長期で▲30、短期で▲15となっている。個別の声として、12月までは少し元に戻ったが1月からコロナの影響が厳しい。コロナの感染拡大と天候悪化により客足が遠く、経営の上昇が見込めない、国民の気持ちが上がらないと景気はよくなる。5月まで原価の高騰が続くと言われていたのでこれを機に全品の販売価格を見直していきたい。コスト増加分を価格に上乗せできず利益が減少している、など厳しい声が聴かれた。

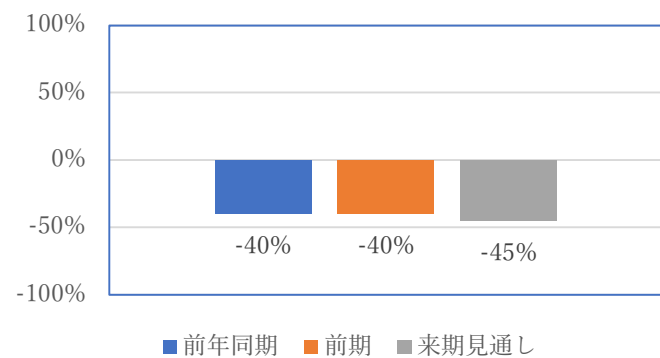
売上推移（千円）



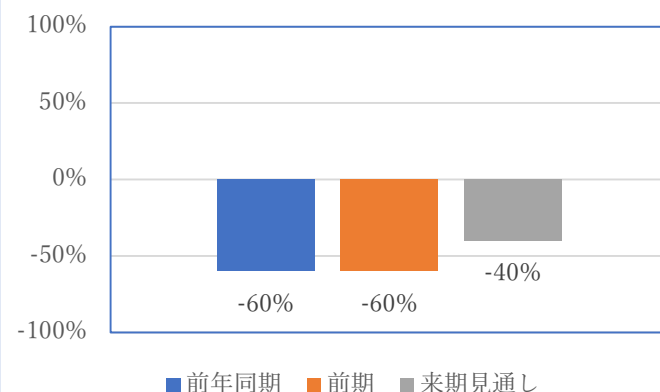
売上DI

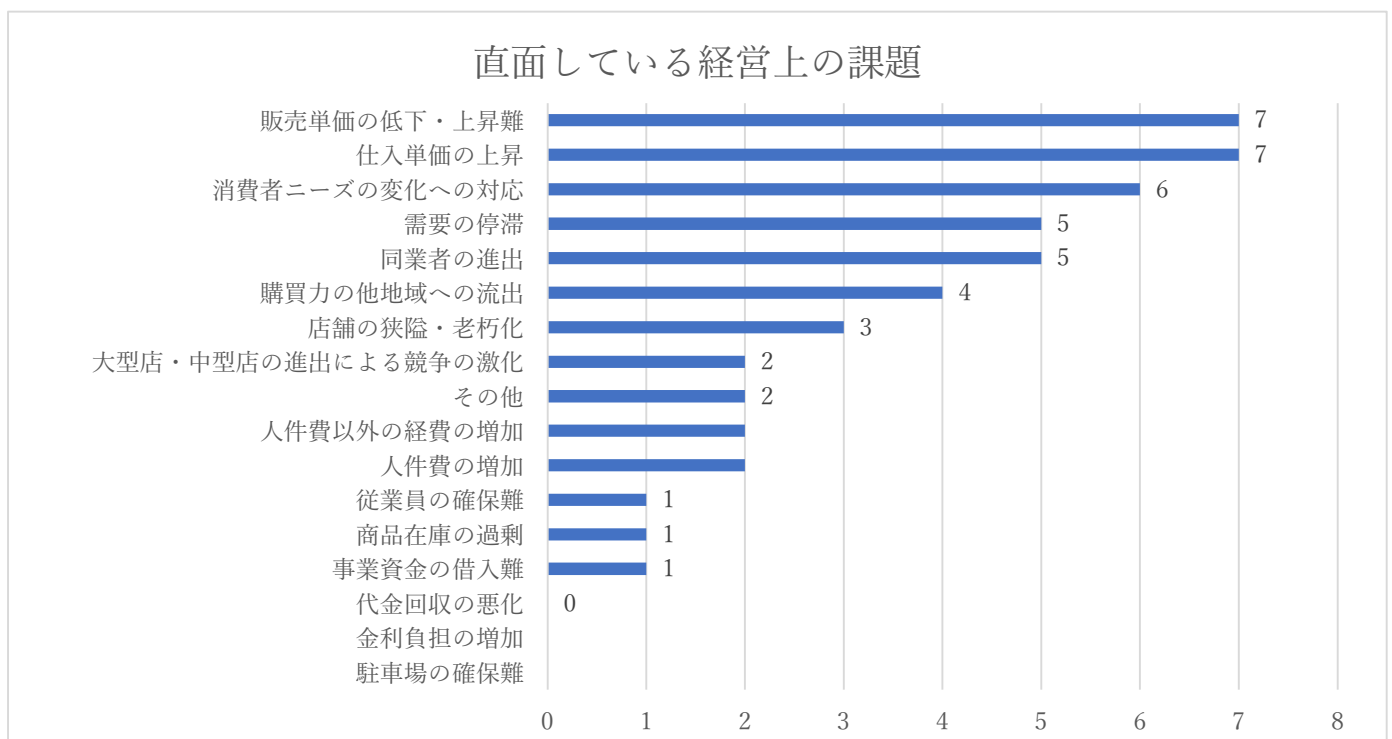
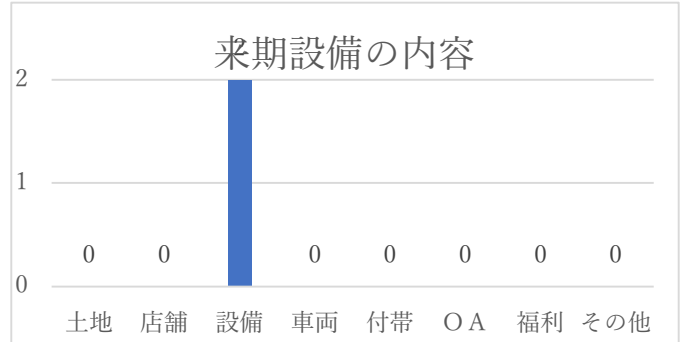
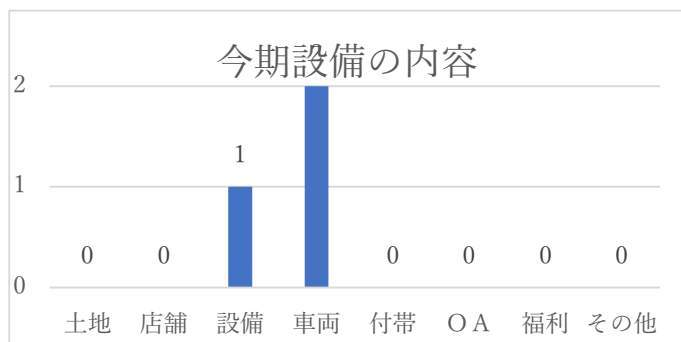
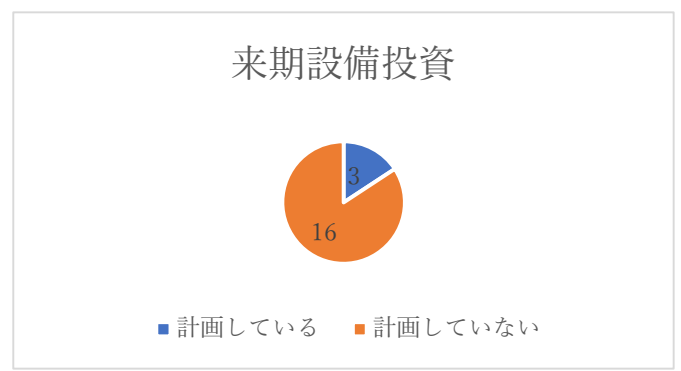
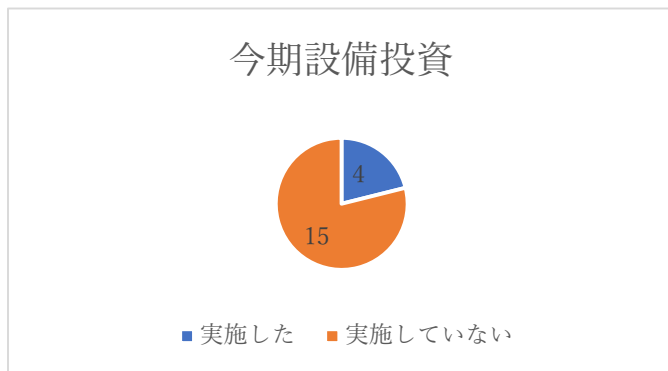
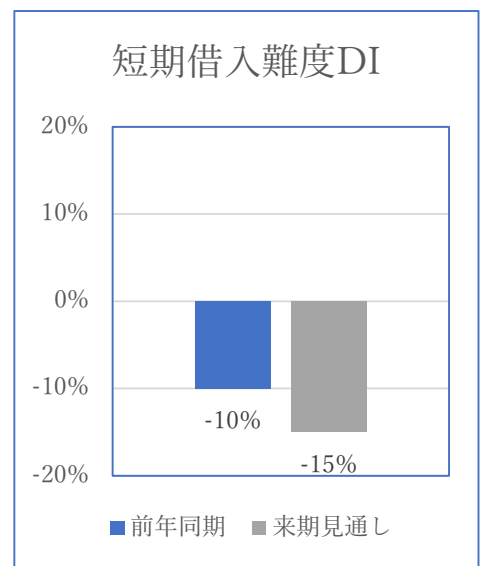
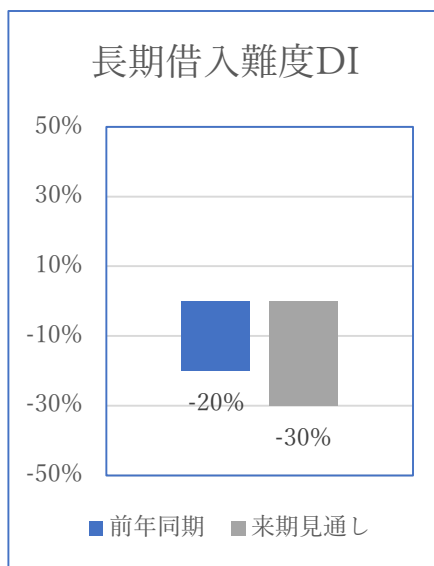
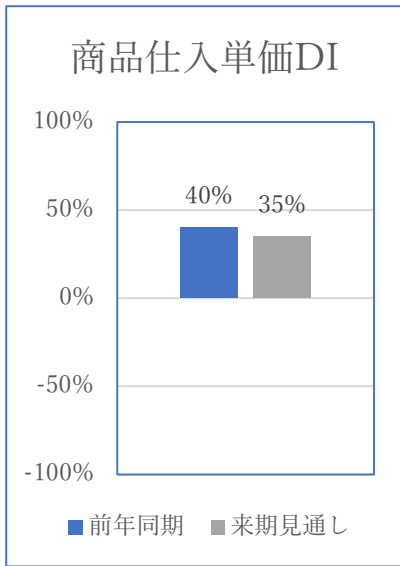


資金繰りDI



客数DI





飲食宿泊業（2022年1月～3月）DI 値抜粋

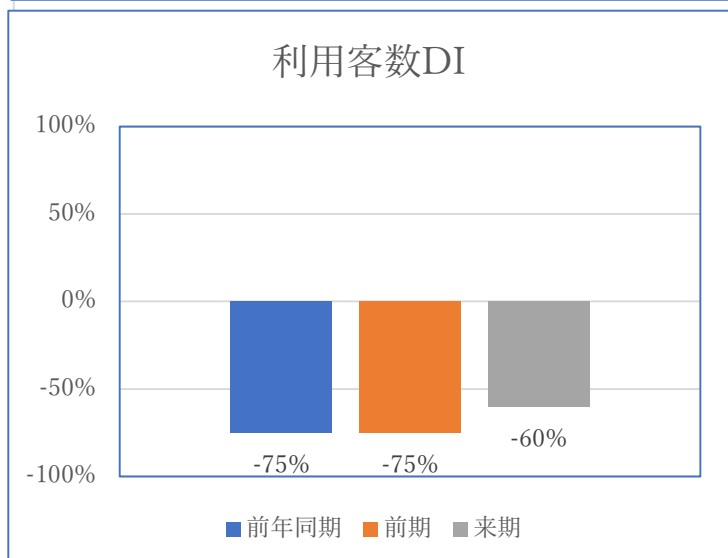
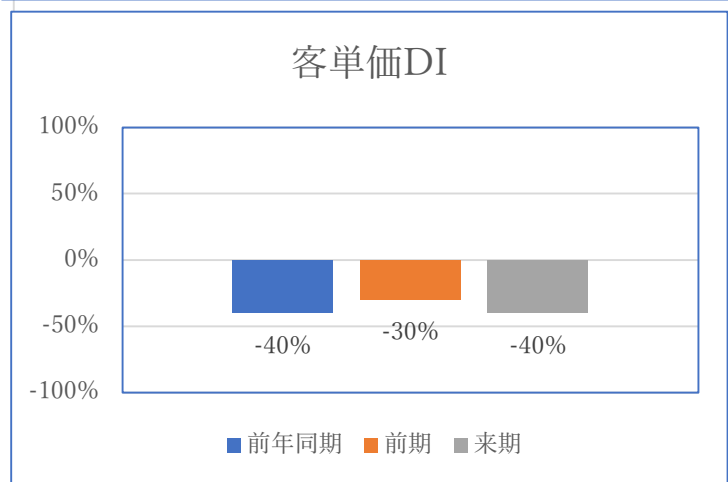
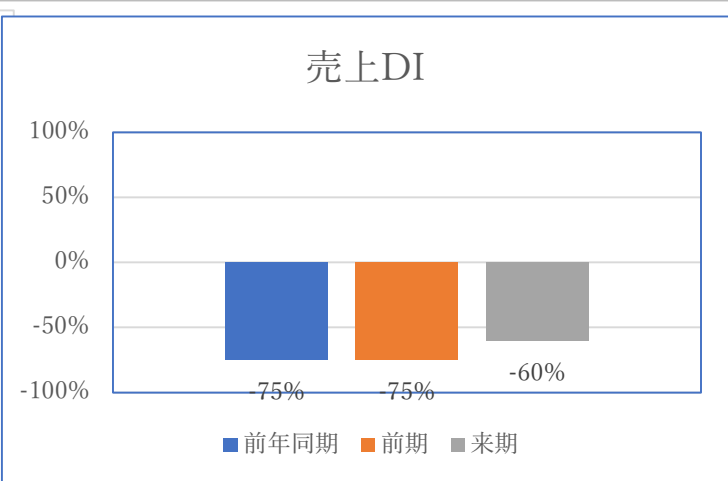
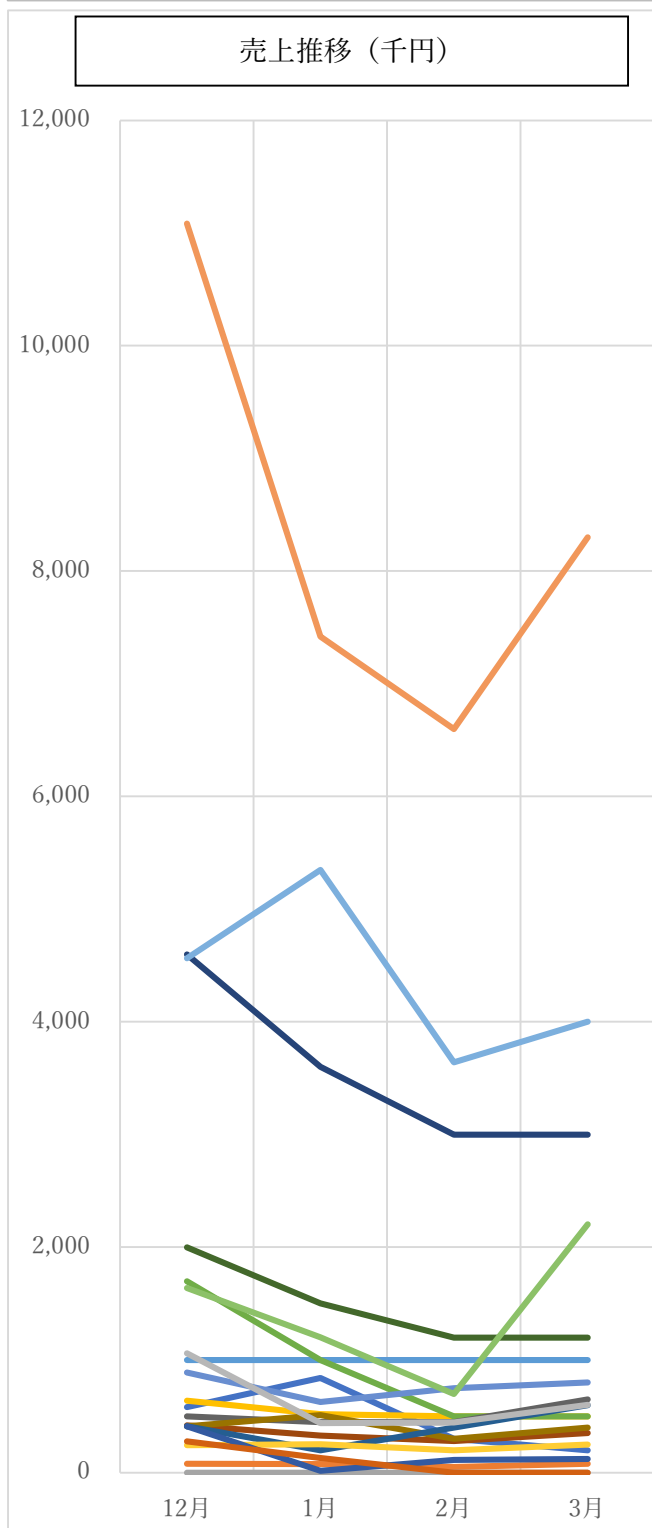
コメント

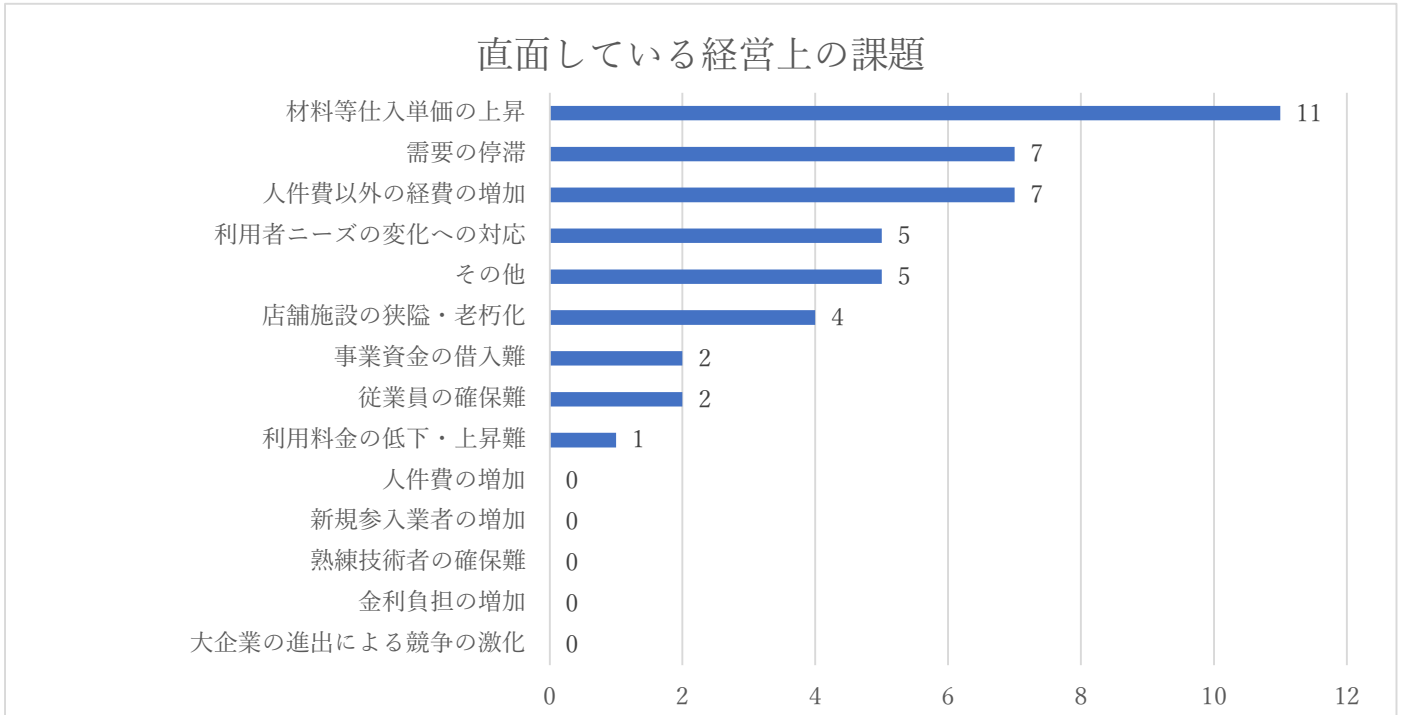
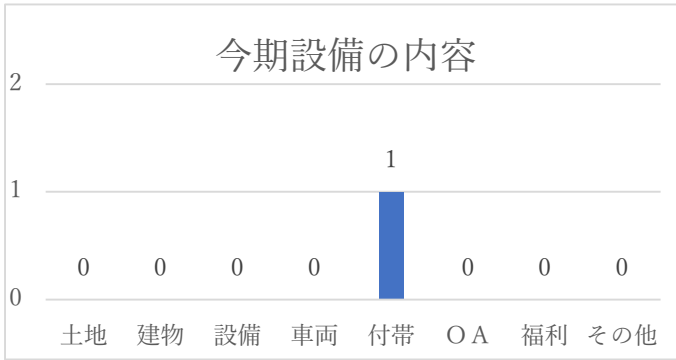
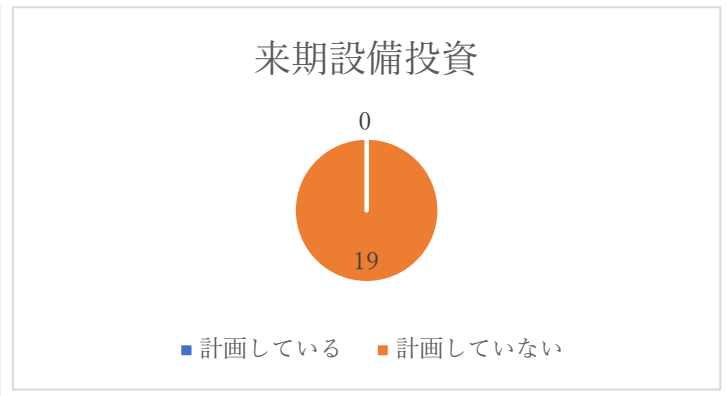
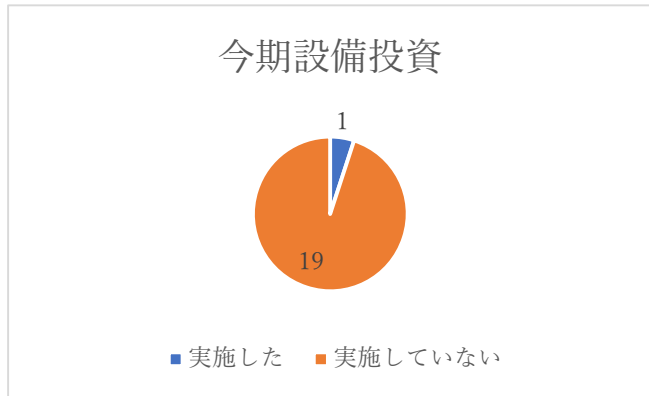
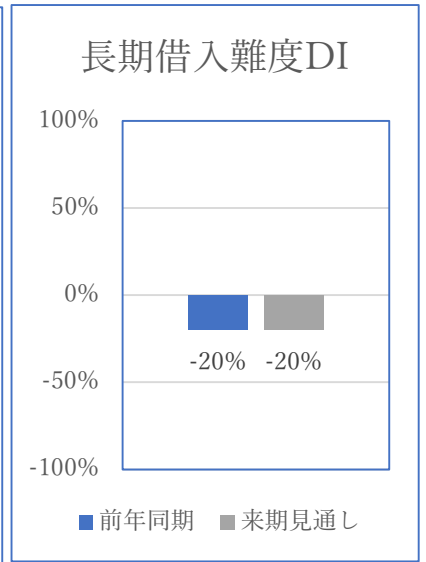
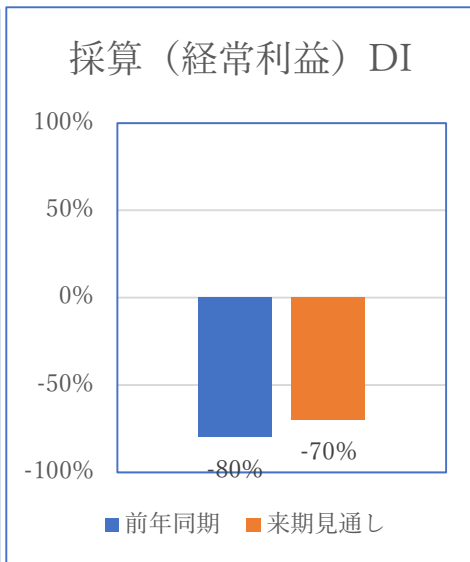
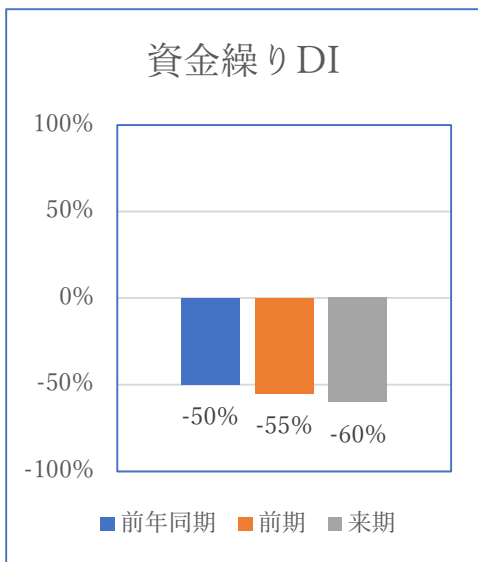
飲食宿泊業の業況に関するDIは、引き続き厳しい状況が続いており、オミクロン株拡大の影響が陣段である。

売上DIは前年同期▲75と前年からの低下の声が大半で、前期も▲75と落ち込んでいる。来期も▲60と売上低下懸念の企業が大半である。客単価DIも低調で、前年同期▲40、前期▲30と引き続き低調であり、今後の見通しも▲40とさらに悪化を懸念している。客数DI前年同期▲75、前期▲75、今後の見通しも▲60と春先からの客足の回復を期待している企業は少ない。

資金繰りDIは前年同期▲50 前期▲55 来期▲60と資金繰り悪化傾向が顕著である。採算も来期見通し▲70と悪化を懸念する声の大半である。設備投資に関しては前回調査から一転し減少となり、12月までに設備投資を終えた企業が多いとみられ足元、来期ともほとんど実施されていない。

個別の声として、コロナの拡大とガソリン高騰、天候の悪化による三重苦であり大変厳しい。3～5月の好転に期待するしかない。コロナと雪の影響が大きい、ワクチン接種の進展により、利用者に安心して外出できるマインドが拡大していくことを望んでいる。といった声のほかに、滋賀県がまん延防止措置を出さなかったことに対する厳しい意見が聞かれた。





サービス業（2022年1月～3月）DI値抜粋

コメント

サービス業の業況は前回で、下げ止まりの様相であったものが再び転落に転じている。オミクロン株流行の影響を他業種より色濃く受けている現状である。

売上DIは前年同期▲40、前期▲45と落ち込みが厳しい状況であり、来期見込みも▲60と悲観的な声を上げる企業が多い。

客単価DIも低迷が続き前年同期▲30、前期▲25、今後の見通しも▲15と低調な状況が続いている、客数DI前年同期▲45、前期▲45、今後の見通しも▲45と回復見込みのない状況である。

資金繰りについて前年同期、前期、来期とも▲20と資金繰り悪化を訴える企業が過半である。仕入単価DIも上昇しており、採算DIは前年同期▲30、来期見通し▲20と収益悪化の声が過半である。

個別の声としては、美容室において大雪により客足が遠のいたという気候に関する声が複数あり、さらに従業員がコロナに感染したため店舗を閉めたための売上激減の大変な状況が聞かれた。市によるキャッシュレス決済キャンペーンなど人流を増やす施策を望む声がある。

